

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000721		
法人名	株式会社 Human-Line		
事業所名	グループホーム 自由の丘 1階		
所在地	小樽市長橋2丁目22番4号		
自己評価作成日	平成30年 9月 30日	評価結果市町村受理日	平成30年12月13日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海を一望できる高台にあるホームです。毎年ホーム前での焼肉パーティーが恒例になっています。穏やかに自分らしく過ごされている笑顔の入居者様の顔があります。そんなホームが自由の丘です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kihon=true&amp;JigvsvqCd=0172000721-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kihon=true&amp;JigvsvqCd=0172000721-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号
訪問調査日	平成30年 11月 28日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台に位置する2ユニットのホームからは、街並みの向こうに海が、反対側の窓からは遠くに山並みが見渡せる眺望に恵まれた環境の中で、利用者はゆったりと穏やかな日々を送っている。利用者は地域のボランティアの音楽演奏、子ども神輿の立ち寄り、町内の中学校の合唱披露を楽しみ、町内会の諸行事や近隣のグループホームの夏祭りに参加するなど、地域との交流を深めている。安全を脅かされる災害については、消防署立ち会いの下に年2回の避難訓練のほか、1、2か月おきに自然災害や停電を想定したシミュレーションを行い全職員が災害に対応できるような体制を構築し、町内会や近隣のグループホームとも協力体制を築いている。医療面では複数の協力医の訪問診療、看護師の配置、24時間連携体制、数多くの看取りを経験しており、終の棲家としても本人・家族の安心に繋がっている。利用者の健康で笑顔あふれる穏やかな生活を支える職員は、管理者を中心にチームワーク良く、レクリエーション・環境美化・広報などの係りを持ち運営に参画している。毎月の内部研修、外部研修に参加し、ケア技術や知識の研鑽を図り、自己チェック表で日々の行動を振り返り、利用者へのより良いケアの提供に努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のネームの裏に理念をいれて、いつも理念を胸に刻みケアを行っています。	事業所独自の理念を目に触れる場所に掲示し、ネームプレートの裏にも記載して職員間の共有を図っている。新規職員は研修で学び、月毎に目標を設定し、理念に沿ったケアを実践するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	子供神輿の休憩場所として地域の子供たちとふれあったり、町内中学校が合唱を披露しにきたり、地域ボランティアの方々も来られています。	町内会に加入し、子ども神輿の立ち寄り、町内清掃・廃品回収などの行事に参加している。地域の中学校との交流、ボランティアの来訪、近隣グループホームの夏祭りへの参加など、地域との交流を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々には認知症の理解がなされていないが、ホームの行事に参加するように声をかけています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヶ月に1回開催しています。町内会長様、家族様、地域包括センター職員様などが参加され、議事録は家族様に送付しサービスの向上に活かしています。	包括支援センター職員・町内会長・家族・複数の職員が参加し定期的に開催している。避難訓練、音楽療法、ボランティアによる演奏などを実際に見学して理解を深め、毎回、議題を定めて話し合い、活発な意見交換を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば電話をしたり出向いたりして相談しています。市の集団指導にも必ず参加しています。	報告事項や相談事項、自己評価・外部評価の報告など努めて足を運び、担当者との信頼と協力関係を深めている。生活支援担当者の定期的な来訪時にはホームでの状況を伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ほとんどの職員が研修会に参加しています。参加できなかった職員も個別で研修内容を共有しています。	身体拘束廃止委員会を設置し、指針を定めて職員に配布し、研修で禁止の具体的な行為や弊害への理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による抑制についても職員相互で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ほとんどの職員が研修会に参加しています。参加できなかった職員も個別で研修内容を共有しています。自分チェック表を作成して1日1日のケアを振り返っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に後見人を必要とする入居者様が入居されていまして、後見人と連絡をとり支援していました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入居者様、家族様の不安なことや要望をお聞きし支援をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の会話や表情から思いを感じとり、カンファレンスを行っています。また面会時での家族様と話をし申し送り、連絡ノートで共有しています。	毎日の会話から、理解の難しい人には簡単な言葉かけや表情から、利用者の意向を汲み取っている。家族からは面会時に意見を聞き、敬老会などでは家族同士が同じテーブルにまとまる様にして意見を引き出し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日コミュニケーションをとっています。また表情を見て何かありそうな時は面談を行うようにしています。	管理者は、毎日の申し送りや会議で職員の意見を引き出すよう努めており、職員の毎日の自己チェック表をみて随時話を聞いている。法人代表とは年数回の面談がある。職員は、環境美化・広報・レクなど係りを決め運営に参画している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修に参加しスキルアップができるようにしています。資格取得できる環境を作っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加した職員による報告書をまとめ回覧しています。またその職員から発表を中心としてホームでの研修も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に出席したり、グループホーム相互研修会に出席し交流しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居者様の不安や思いなどを聞き入れて、安心して暮らせるような環境づくりに励んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様に不安や要望などを、面会時などでコミュニケーションをとり意向を聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様や御家族様の思いや願いが実現できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを常に思い尊厳をもって接し、不安を解消し楽しみなどを共有して信頼関係を作っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行している広報や面会時で日常の様子をお知らせしています。また行事への参加の声かけを行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御希望があれば自宅の様子を見に行く事もあります。また入居者様と買い物をしたり、外食に出掛けたりしています。友人知人が来訪することもあります。	家族や知人が来訪した時は寛いで話ができるよう配慮しており、一緒に食事を摂る人もいます。宿泊の用意もあり、希望があれば泊まることもできる。本人が自ら電話をしたり手紙を出したり、馴染みの関係が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様がフロアに集まっている時に、職員が会話に交わりながら入居者様同士仲良く交流できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が入院した際にはお見舞いに行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のケアでの言動や表情から、入居者様の思いをくみとったり、御家族から情報を得て支援につなげています。	本人との会話や表情から意向を汲み取り、家族からの情報を得て、申し送りノート、介護記録に記録するなど職員間で共有を図っている。アセスメントシートによる基本情報は毎月見直している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や御家族様、また生活歴などから情報を収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できることとできないことを日々の生活の中で見つけだして、できることを維持できるよう、その人らしい生活を提供しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、御家族の意向を確認し取り入れながら、カンファレンス、申し送りノートで職員の情報、意見を出し合って介護計画を作成しています。	計画作成者は、本人や家族の意向、医師・看護師の意見、職員の情報を取り入れ、職員全員でのカンファレンスで検討し介護計画を作成している。介護計画は3か月毎に見直すとともに、状況に変化があれば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個人ファイルに保存しています。入居者様の話された事や表情をそのまま記録し、申し送りノートで職員同士共有し介護記録の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の送迎や買い物をはじめ、24時間の面会など柔軟に支援とサービス向上に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣グループホームのお祭りに参加したりしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医が往診しています。必要に応じて歯科往診も受けています。また入居者様、御家族様の要望に応じて病院受診も支援しています。	2か所の協力医から2週間に一度の訪問診療があるほか、かかりつけ医の受診には家族の協力を得て職員が同行支援している。協力医、看護師と24時間の連携体制を整備している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1～2回看護師が入居者様の現状を把握し、介護職員が気付いたことを伝え指示を受けますようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入居者様が入院された際、医師と情報交換しています。またお見舞いの際には御家族様と話し合う場をもうけ退院された時も支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様に変化があるごとに医師、看護師、御家族様と話し合う場をもうけ、入居者様の思いをくみ取り、職員でケアを統一して取り組んでいます。	契約時に「重度化した場合の指針」に基づき説明し同意を得ている。重度化した時は、家族、医師、ホーム(管理者・看護師)と話し合い、看取りを実施している。これまで多くの看取りを経験しており、医師・看護師と密接な連携のもと職員が一体となってきめ細かな巡回、声掛けを行い看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	火災時対応マニュアルを作成し避難訓練のシミュレーションを1～2ヶ月に1回行い全職員に周知しています。またAED講習も定期的に研修しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練の様子を消防署員様に見ていただき指摘を頂いています。また近隣のグループホームと協力体制をとり避難場所を確保しています。	年2回、消防署立会いの下に避難訓練を実施している。また、火災・自然災害・停電などを想定した避難訓練のシミュレーションを行い、全職員が災害時に対応ができるよう努めている。町内会や近隣グループホームとの協力体制を築くとともに、備蓄品も確保している。	火災による避難訓練は、利用者も参加しているが、各種災害を想定したシミュレーションは職員のみなので、突発的に発生する地震災害から利用者自身が身を守る地震訓練の実施を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応などを職員同士注意するようになっています。また自分でも自分チェック表でその日の言葉使い、表情などを振り返るようにしています。	理念に、「人生の先輩に尊敬、敬う心を忘れない」と明記し、「自分チェック表」により言葉遣い、表情などを毎日振り返り、職員間でも互いに注意し合いながら利用者の誇りやプライバシーを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が着たい服を選んだり、飲みたいものを希望したり、食事の時には好きな味付けにしたりと対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や外食等の外出支援の際、好みの物を選んで楽しんで頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋さんに2ヶ月に1回来ていただき、散髪やひげそりを行っています。また化粧品の買い物に支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日には、好みの物を提供しています。また食事の下ごしらえや、食事に使うおしぼりの洗濯等を職員と一緒にしています。	食事の支度を職員と一緒にしたり、出前の寿司を取る、外食に出掛ける、菜園で採れた新鮮な野菜類を使うなど、食事が楽しめるよう工夫している。食事前には嚥下体操を取り入れ、職員と共に和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量は記録し、食べれる量だけ摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけで歯磨きをして頂き見守り介助しています。場合によっては職員が介助することもあります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行くことが難しい入居者様には排泄チェック表を作成し、排尿時間を把握しトイレ誘導などの支援をしています。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、時間や表情からプライバシーに注意して声掛けを行い、トイレでの自立排泄を支援している。入院で紙パンツ使用になった利用者には、パッド、布パンツなど、早期に元に戻れるような支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、牛乳やヨーグルト等の乳製品を摂取して頂いたり、ラジオ体操に参加して体を動かして頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後と入居者様の希望に合わせて入浴を行っています。また同性介助の御希望がある入居者様には応じた支援をしています。	週2回以上を目途として希望に合わせて入浴を行っている。入浴前のバイタルチェックでの体調によりシャワー浴にするなど柔軟に対応している。入浴中はお話し、好みの入浴剤で、ゆっくり入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない入居者様には、フロアや居室でお話を傾聴して不安を少しでも解消できるよう心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用している薬の一覧表を作成しています。また服薬する事前に本人の名前、月日を声に出して他の職員と共に確認し、間違いがないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の出来ることをして頂き、生活に張り合いがもてるようおしぼりたたみ、お盆消毒、ゴミ集め、花の水やり、おしぼり洗い、掃除機掛けなど役割を持って頂くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	市外のお店での外食の際には、街中や森林道等を通り、入居者様に楽しんでいただいています。毎年花見には行き楽しんで頂いています。	天気の良い日の散歩、買い物、家庭菜園での野菜の生育や花を眺めての外気浴など努めて外気に触れる機会を設けている。外出行事として、花見や紅葉ドライブ、外食、買い物ツアーなどを実施し、利用者の楽しみや生活の活性化を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診の帰りに御本人所持しているお金で買い物ができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様に電話をしたり、息子様に手紙を書いたりしています。また息子様からも手紙が来る事もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じることができるよう季節の花を飾ったりしています。また入居者様に季節に見合ったぬり絵などをしていただき、その塗り絵をフロアなどに飾って季節感を出すようにしています。	高台に位置するホームからは、眼下に海や街並みが、反対側の窓からも遠くに山並みが見渡せる。居間・食堂は明るく広く、エアコン・加湿器により温湿度、日射しも快く管理されている。絨毯を敷き詰めた床、所々に置かれた植木鉢、季節季節の飾り付け、季節を反映した利用者の塗り絵など、居心地のよい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の居室へ行かれて入居者様同士お話をされていたり、隣同士に座ってお話をされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を自宅から持ってきて使用したり、仏壇を持ち込まれる入居者様もいます。	使い慣れた家具を持ち込み、思い思いに家族の写真や作品を飾り、自分らしく過ごせるよう工夫している。絨毯敷きの床、毎日の清掃で清潔に保たれ、居心地良く心安らぐ居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や立位が不安定な入居者様の為に手摺りを設置しています。車いす使用の入居者様の高さに合わせて洗面台を設置しています。		